



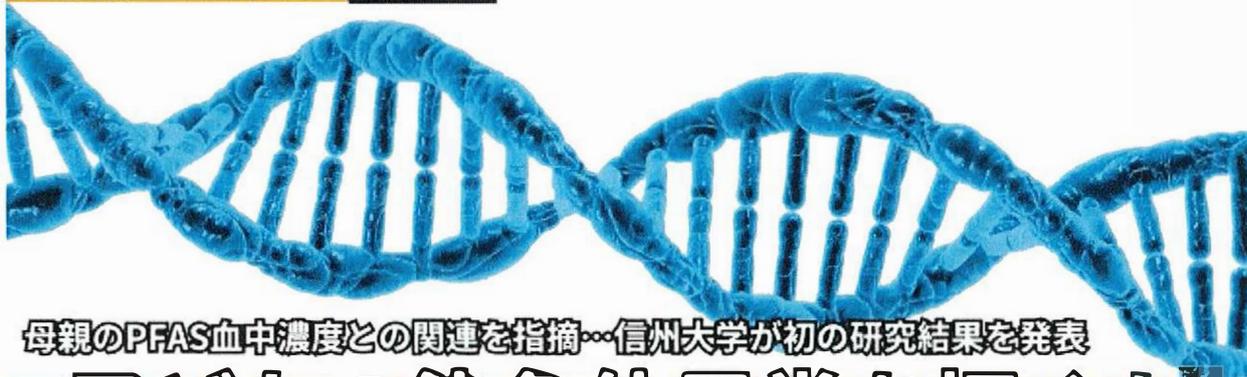
2025年7月28
日

スマニュー+を購読

諸永裕司の
PFASウォッチ



Slow
News



母親のPFAS血中濃度との関連を指摘…信州大学が初の研究結果を発表

子どもの染色体異常を招くか

SlowNews

衝撃の調査結果！PFASが子どもの「染色体異常」に関連する可能性を初めて指摘…信州大学が発表

SmartNews+

環境省による「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の一環で、信州大学が興味深い研究成果を発表した。

妊娠中の母親の血液中のPFAS（有機フッ素化合物）濃度が上がると、生まれてくる子どもの染色体異常が増える傾向がある――。

染色体異常は流産を引き起こすほか、ダウン症候群の原因にもなるものだ。

エコチル調査ではさまざまな化学物質による健康への影響を調べており、PFASとの関連についての結果が明らかになるのは3例目となる。

これまでに発表されたのは「喘息」と「川崎病」についてで、いずれもPFAS曝露による影響は「ない」とされた。PFASの曝露による影響が「ある」とする結果がでたのは初めてとなる。

44人の子どもに染色体異常を確認、母親の血中濃度が影響か

信州大学の野見山哲生教授と長谷川航平助教は、これまでにPFASと「染色体異常」との関連についての研究が国内外でほとんどないことから取り組んだという。2021年秋にテーマが決まり、論文を書き上げて専門誌に投稿した後、査読で3回指摘を受けて修正した末、今年9月ようやく発表にこぎつけた。

血中濃度を測った母親は24,724人。このうち、遺伝子検...

【続きを読む】妊娠中の母親の血中PFAS濃度が子どもの染色体異常につながる可能性 遺伝子検査で検出された衝撃の結果とは？

